

# ～教員おすすめ本～

No. 22

教職教育部

富岡 勝



## 『しゃべれどもしゃべれども』

佐藤多佳子 著

### 【先生からのコメント】

昔ながらの江戸古典落語のスタイルを頑固に愛する若手落語家が、スランプやまわりの人物とのトラブルに苦しみながらも、ひよんなことで年齢の異なる様々な人に落語を教えることになり、教えている内に主人公も教え子たちも次第に変わっていく様子が描かれている。

落語知識の有無にかかわらず、スランプから抜け出したい人や「細かくて面白い」描写を楽しみたい人におすすめしたい。佐藤多佳子は、短距離走者の高校生を濃密に描いた物語『一瞬の風になれ』の著者としても広く知られている。



## 『八朔の雪』

高田郁 著

### 【先生からのコメント】

人生のどん底からの再挑戦を目指す大坂出身の若い女性料理人が、慣れない江戸で、人との出会いの中から新しい料理を一つひとつ工夫していく物語である。「濃密で楽しい」文章の見本のような作品で、時代物に馴染みがなくても楽しめる。

著者の高田郁は、この「みをつくし料理帖」シリーズの成功で「チャンバラが登場しない時代小説」という新ジャンルを定着させてしまったようだ。発売から9年ほど経つが、今でもよく、大きめの書店で目立つ場所に置かれているのを目にする。本のプロである書店員からの持続的な支持があるのかもしれない。

2018年9月14日

近畿大学中央図書館